

6月 月例研修会報告

「明日香路に万葉歌碑を訪ねて」

6月の例会は梅雨入りしたばかりの9日(月)に橿原神宮前駅東口に集合し緑濃い明日香を訪ねた。前日の天気予報の降水確率が午前20%、午後60%がたたったのか参加者は少な目の18人であった。当日のお天気が心配されたが、薄曇りのいいお天気となった。今回の案内役は明日香を知りつくした前犬養万葉記念館に協力する会代表の水本洋氏にお願いした。



甘櫛の丘入口の山法師

バスで甘櫛の丘まで移動し丘に登る、登り口の白いヤマボウシが鮮やかに迎えてくれた。途中で故犬養孝先生揮毫の万葉歌碑があった。この歌碑は犬養先生の歌碑第1号で志貴皇子御製の歌である。水本先生の犬養節で全員で朗唱する。

「采女の袖吹き返す 明日香風 京を遠み いたづらに吹く」 卷1-51

甘櫛の丘からの展望は絶景で西には金剛・葛城の山々と二上山、目の前には大和三山が見える。二上山と言えは悲劇の皇子、大津皇子を抜きにしては語れない。天武天皇崩御の直後に謀反の疑いで処刑された皇子は優れた歌人であった。万葉集に残る相聞歌中の白眉「あしひきの山のしづくに 妹待つと吾たち濡れぬ 山のしづくに」の歌を全員で朗唱する。



甘櫛の丘頂上で記念撮影 14/6/9

甘櫛の丘を下りて水落遺跡から飛鳥寺、入鹿の首塚と歩く。天気が良くなってきてかなり暑い、首塚の前で水本先生による乙巳の変、入鹿暗殺の書記の記録を聞く。暗殺のシーンがリアルで生々しい。伝明日香板葺宮跡に行く、ここは4層に宮跡が重なっているようで一番新しい宮(上部)は天武の明日香浄御原宮であるという。しばらく明日香村の町中を歩いて石舞台古墳に到着、ここで昼食を摂った。午後から天気は下り坂の予報であったが、どうやら持ちそうである。飛鳥川のほとりの玉藻の歌碑の前で朗唱する。亀石から川原寺、橘寺と歩き、聖徳太子御生誕地の石碑の前で先生から2首の歌の説明を受けた。世間の無常を厭う歌と、少々不真面目な歌であったが、不真面目な歌だけ記憶に残った。

「橘の寺の長屋に わがいねし ^{うないはなり} 童女放髪は 髪上げつらむか」 卷16-3822

童女放髪とは少女のおかつば頭のこと、髪上げは成人のしるし、大人になると髪上げをした。かつて橘寺の長屋で一緒に寝たかわいい娘はもう嫁にいったかなぐらいの意味だが、今も昔も男と女の世界は変わりません。天武・持統合葬陵から中尾山古墳、高松塚古墳と回る。このあたりの古墳は終末期の古墳で八角形である。中尾山古墳近くの紅の裳裾歌碑から正面を見渡せば、檜隈の地である。ここは渡来系豪族である ^{やまとのあやし} 東漢氏の根拠地で、蘇我軍の中核であった。



みごとな切石の岩屋山古墳 14/6/9

吉備姫王墓・猿石、欽明天皇陵、岩屋山古墳と回り飛鳥駅に到着した。水本先生の豊富な古代史の知識に感心しながら、明日香をフルに回った一日であった。水本先生ありがとうございました。飛鳥駅前食べたあすカルビーの入ったソフトクリームはおいしかった。

(杉本 登)